



EVENT

イベントのお知らせ

お出かけ前に最新の情報をHPなどで必ず確認してください。

まちライブラリー HP machi-library.org/

兵庫 明石

3/14 ⑤ まちライブラリーフェスタ

あかし市民広場 11:00~16:00 ●講演 13:30「まちライブラリー入門講座」磯井純充
ウイズフェスinあかし市民広場のイベントの一環として、まちライブラリーフェスタが開催されます。「複合型交流拠点ウイズあかし」にもまちライブラリーがあります。

徳島 徳島

3/19 ⑥ 20 ⑧ ⑨ 「街角ライブラリー」勉強会・講演会

講師：磯井純充

徳島県の読書推進活動である「街角ライブラリー」は、まちライブラリーをヒントに展開されています。本を通したまちづくり・コミュニティづくりについて、2日間にわたり講演と関係者との勉強会をおこないます。

兵庫 伊丹

3/21 ⑩ 祝!第100回カエボン部

伊丹市立図書館こぼれ蔵1階交流フロア・伊丹市立中央公民館(会場参加定員各10名) 要予約
第1部 14:00 講演「コロナ時代の場づくり」磯井純充 / 第2部 15:00 読書会
参加費:無料 ※第1部 講演会はオンライン参加も可能(定員20名)
カエボン部100回目記念イベント。講演とテーマである「100」にちなんだおススメ本の交換会「カエボン部」が開催されます。

長野 茅野

4/10 ⑪ まちライブラリー@My Book Station 茅野駅 4月スプリングイベント

ワークラボハヶ岳イベントスペース(まちライブラリー@My Book Station 茅野駅) 13:00~15:00
参加費:無料(会場定員15名+オンライン)
橋爪紳也氏(大阪府立大学研究推進機構特別教授 / 同大学観光産業戦略研究所長 / 大阪府・大阪市特別顧問)と磯井純充が「まちづくりと図書館」をテーマに語り合います。

New! まちライブラリーの紹介

新たに仲間入りした各地のまちライブラリーです。
開館日時など詳細は、まちライブラリーHP「まちライブラリーに行こう!」で検索できます。
(No.は登録番号です)

NO. 816 (兵庫 宍粟)

まちライブラリー@宍粟【2021年3月オープン予定】

上林建設株式会社の敷地内に併設されたライブラリーです。木造の温かい空間で庭を眺めながら、ゆっくりした時間をお過ごしください。

・Web: <https://www.uebayasi.co.jp>

・オーナー: 上林建設株式会社

NO. 820 (大阪 大阪市東成区)

まちライブラリー@しんみちPATRI

日常の買い物や地域の人たちとの交流に活用されている「東成しんみちロード」の交流拠点として平成22年に誕生。この度、地域交流サロンとして再オープンします。お年寄りからお子さんまで、気軽に利用できるスペースとして、地域の顔の見える関係を作っていきたいと思えます。

・Facebook:

<https://www.facebook.com/shinmichi.patri/>

・オーナー: 藤原洋一

NO. 822 (長崎 長崎)

まちライブラリー@nagasaki-no neco

長崎市の眼鏡橋の近くにある、曲がった尻尾のねこ=通称「尾曲がりねこ」がトレードマークの猫雑貨店です。2016年のオープンから店長が集めたねこの本をねこ図書館としてお店に並べています。

・Web: <https://www.nagasaki-neco.com/>

・Facebook:

<https://www.facebook.com/nagasaki-neco/>

・オーナー: nagasaki-no neco

NO. 823 (兵庫 加古川)

まちライブラリー@mocco加古川

加古川市に新しくオープンするコワーキングスペースmocco加古川内に、市内で初となるまちライブラリーを開設します。150坪と広い店内に様々な種類の座席をご用意、定期的にイベントも開催予定。本をきっかけとしたコミュニケーションがたくさん生まれ、日常に少しの楽しさが増えますように。

・Web: <https://mocomocco.net/kakogawa/>

・オーナー: コワーキングスペースmocco加古川

NO. 824 (東京 小金井)

ブーちゃんらいぶらり♪まちライブラリー @おはなし音楽隊

おはなし音楽隊は、パペット(こぶたのブーちゃん)のナビゲーションで絵本・紙芝居などの実演やオリジナル音楽の生演奏、楽器づくりやワークショップなどを行っています。音楽絵本やプログラムに関連した本を楽しめる空間です。代表者は学校司書であり、絵本専門士です。様々な手法のおはなし会、読書支援を実施しています。

・オーナー: おはなし音楽隊(こぶたのブーちゃんとおはなし音楽隊)おかだはるこ

NO. 825 (兵庫 明石)

明石のはらくらぶ環境寺子屋*とば まちライブラリー

のはらくらぶは、「身近な自然と人の輪づくり」を目指して、16年に亘って地域で活動し、地域に開かれた放課後の子どもたちの居場所づくりをしてきました。地域の皆さんの寄贈などにより、自然に関する本がたくさん集まったため、図書コーナーを設けました。本を通して身近な自然を感じていただけたらと思います。

・Web: <https://noharaclub.jp>

・Facebook: <https://www.facebook.com/明石-のはらくらぶ-321097998007945/>

・オーナー: 明石のはらくらぶ代表 戸田耿介

NO. 826 (京都 京丹後)

まちライブラリー@つねよし百貨店

地域でただ一つの商店兼コミュニティスペースです。コロナの影響で出かけたり、集まったりしづらくなりましたが、そんなときは一人静かに本を読むのもいいかも。直接出会えなくても、本を通じてつながれる、そんな関係がここで生まれたら嬉しいですね。

・Facebook: まちライブラリー@つねよし百貨店

<https://www.facebook.com/tsuneyoshimura>

・オーナー: 東田一馬

新たな試み

～生活の拠り所を取り戻すまちライブラリー～

第2回まちライブラリー オーナーズフォーラム

3/13(土) 14:00～16:00 zoomにて開催

申込み: machilibrary.admi@gmail.com

ま ちライブラリーのオーナーズフォーラムを始めました。初回は2月11日に実施しましたが、30名近い参加がありました。地域づくりを意識しながら臨時の珈琲スタンドを設置してまちライブラリーをやっている人、元大学図書館に勤めていた人が始めたまちライブラリーカフェ、市のコミュニティセンターに誕生したまちライブラリー、人生に影響を与えた本の読書会をしているグループの4カ所の皆さんから報告をしていただき、意見交換を行いました。

発表者や参加者の発言から、皆さんが多様な目的や意図で始められており、その千差万別な違いに改めて驚かされました。

まちライブラリーを始める目的は、おおよそ次のように整理できます。

- ①地域づくり・場づくりを意識している人
- ②本にこだわりを持っている人
- ③人とのつながりを求めている人
- ④自らの課題や夢に挑戦している人
- ⑤公共機関、図書館との連携を目指している人

さらに、まちライブラリーの利用者の意識は次の3つに分けられます。

- ①本の閲覧、貸出を求めている。
- ②勉強、仕事の場として利用している。
- ③イベントに参加する。

今回のオーナーズフォーラムで話題になった

のは、どのようにして利用者を増やすのかということでした。これについては、利用者の特性によって、分布に違いが生まれてきます。右の表に整理してみました。

①の場合は日常的な利用が想定され、利用は近傍の人が多いたと言えます。どういう手段で認知したかについては身近な人から聞いたり、通り返りなどとなっています。

②の学習や仕事の場所として利用している人も、日常的利用ではありませんが、本の閲覧ほど近傍でなくても自宅、職場、学校の経路などの利便性があれば利用してくれて、この場合は知人、チラシのほかにHPでの検索、認知によって訪れる傾向があります。たとえば、まちライブラリー@大阪府立大学は、現在学習や仕事で利用される場になっていると言えます。

③に関しては、イベントの内容によるので、中距離まで利用者が見込めますが、この場合はSNSやHP、チラシが有効で、そこにリピーターとして根づいたファンが加わってくるようです。意見交換の中で、身近な人の利用を想定しているのにSNSで発信している人が多かったり、逆にイベントの中身を売ろうとしているのに対象者とは興味が違うような知人や近隣に頼りすぎていたりする様子が見受けられました。求める利用者層と利用目的、認知手段をうまく

	利用目的	利用頻度	利用者行動範囲	認知手段
①	本の閲覧・貸出	日常的	近傍(2 ^{キロ} 程度)	知人、通りすがり、チラシ等
②	学習・仕事	日常的	利便性重視	HP、知人、チラシ等
③	イベント	非日常的	中距離まで可	SNS、HP、チラシ等

組み合わせることが大事ですし、全体的にまちライブラリーは、身近な日常性の中の居場所として運営したほうが育ちやすいとも言えます。一番大事なのは、人を集めるのに汲々とするのではなく、自ら楽しめるやり方に軸線を決め、生活の潤いを求めて行う活動であるというまちライブラリーの原点に立ち返ることです。

戦後復興から高度経済成長、バブルを経て、グローバル化を謳う人が多い時代となりましたが、今こそ我々の生活の充実を目指すべきではないでしょうか。日々の生活、身近な人との関係性、あるいは地域における自分の役割について改めて考えることがこれからの時代の大きなテーマになると思います。

そのときに、日常の生活を軸にした拠り所としてのまちライブラリーが重要なカギになってくるかもしれません。自分を受け入れてくれる居場所としてのまちライブラリーもあるし、自分を創発して刺激を与えてくれる、あるいは身近な

人と普段会えないような人とのつながりを生み出す機会としてのまちライブラリーもあるでしょう。それぞれの人に充実感を与えられる場としての複合的なまちライブラリーの在り方が求められていると考えます。

コロナ禍であることと、登録数が増えたこともあり、各地のまちライブラリーを訪ねてオーナーさんとお話する機会が少なくなっていました。今回のオーナーズフォーラムでは秋田から熊本まで、各地の多様なオーナーさんとお会いし、皆さんの考えやノウハウを交換できる機会となったという点では、非常に意味のある会でした。今後も実体に即した、それぞれ人のニーズに応えられるようにしていきます。

まちライブラリーに関して私の考えていることも広く公開しながら、それを皆さんと共有し、まちライブラリーを楽しんでいく糧にしたいと思っています。